



青梅市立総合病院新病院 基本設計概要書
Ome Municipal General Hospital

施設整備方針

■ 1_ 病院の理念・基本方針

1. 理念

私たちは、快適で優しい療養環境のもと、地域が必要とする高度な急性期医療を、安全かつ患者さん中心に実践します。

2. 基本方針

- 私たちは、清潔な病院づくりに努力します。
- 私たちは、親切な病院づくりに努力します。
- 私たちは、信頼される病院づくりに努力します。
- 私たちは、自立できる病院づくりに努力します。

■ 2_ 新病院の施設整備方針

1 救命救急センターのさらなる強化を図る病院づくり

2 高度急性期医療・高度専門医療を強化・拡充する病院づくり

3 災害に強い病院づくり

4 地域の人々や職員に愛される病院づくり

5 環境に配慮した病院づくり

6 病院運営をしながらの安全かつ合理的な建替計画



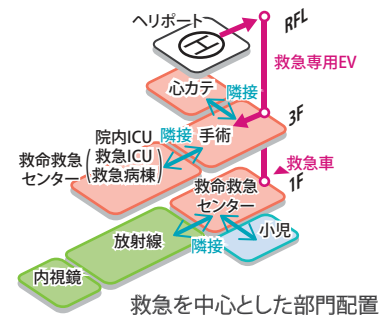
※イメージ図は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。

基本計画に沿った整備方針

1 救命救急センターのさらなる強化を図る病院づくり

■ 救命救急センターと関連部門を新南棟に一体整備

- ・1階救命救急センターと屋上ヘリポートを直結する救急専用エレベーターを整備します。
- ・手術部門、救命救急センター(救急病棟・救急ICU)、院内ICU、心臓カテーテル室(心カテ室)を3階に集約し、救急専用エレベーターと隣接配置します。
- ・1階救命救急センターと小児外来を隣接配置することで、小児救急医療の機能強化を図ります。
- ・1階救命救急センターと放射線部門を隣接配置します。



2 高度急性期医療・高度専門医療を強化・拡充する病院づくり

■ 臓器別センター化

- ・心臓血管センター、消化器病センター、呼吸器病センター、脳神経センター、脳卒中センターを整備し、内科・外科の連携強化、チーム医療の推進を図り診療の総合力・職種の専門性を高めることで高度専門医療の充実を図ります。

■ 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

- ・緩和ケア病棟(15床)を新たに整備します。
- ・がん相談やがんサロンの充実と化学療法室のベッド数を28床に拡充します。

■ 血液疾患治療基幹病院としての機能強化

- ・血液内科外来の充実と新たに無菌病室3床、準無菌病室9床を整備します。

■ 東京都周産期連携病院としての機能強化と小児救急体制の整備

- ・新生児集中治療室(NICU)3床、新生児後方病床(GCU)6床を整備します。
- ・分娩室を3室整備し、救急専用エレベーターと隣接することで手術室へ迅速に搬送できます。
- ・小児科と1階の救命救急センターを隣接させて、連携強化を図ります。

■ 救急病棟や集中治療室(ICU)の機能強化

- ・救急病棟20床、救急ICU4床、院内ICU6床を整備します。
- ・救急病棟及び集中治療室は、手術室と隣接配置します。

■ 手術部門の機能強化

- ・救急患者の増加やより高度な手術に対応可能な手術室を10室(予備1室)整備します。
- ・アンギオグラフィ(血管撮影装置)と一体となったハイブリッド手術室、手術支援ロボット対応の手術室を整備します。
- ・BCR手術室(バイオクリーンルーム)を3室整備します。
- ・日帰り手術が可能な外来手術センターを整備します。
- ・手術部門と中央材料室を専用のエレベーターで直結します。

■ 放射線部門の機能強化

- ・脳神経センターに隣接させて、アンギオCT室を整備します。
- ・手術部門に隣接させて、心カテ室を2室整備します。

■ 第二種感染症指定医療の機能強化

- ・他の部門と完全に独立した感染外来を整備します。
- ・第二種感染症病室6床を整備します。



ハイブリッド手術室(イメージ図) 手術支援ロボット「ダヴィンチ」(イメージ図)

アンギオCT室(イメージ図)



※イメージ図は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。

3 災害に強い病院づくり

■ 地域災害拠点中核病院に相応しい構造計画

- ・新南棟は、免震構造を採用し耐震性能強化とともに、医療機能の継続性を確保します。
- ・渡り廊下棟は、最も地震に強い耐震性能レベルの耐震構造とします。

■ 被災傷病者等への対応

- ・玄関キャノピーをトリアージスペースと位置づけ、講堂とエントランスホールを隣接配置することで、より多くの被災者の受入れと処置スペースに活用します。
- ・エントランスホール、講堂やリハビリ等には医療用の電源や医ガスを整備します。

■ ライフラインの多重化

- ・電力を2回線で引込むとともに、災害に強い中圧ガスの引込みを行います。
- ・ライフラインの途絶時に3日間病院機能が維持可能な設備を整備します。
- ・下水道本管損傷時に使用できる緊急排水槽を、現東棟地下ピットに設置することを検討します。

■ 充実した備蓄倉庫

- ・現西棟地階を利用し、医薬品、医療材料、食料、ベッドや毛布等の備蓄倉庫を整備します。



免震構造の採用



災害に強い中圧ガス

4 地域の人々や職員に愛される病院づくり

■ 患者支援センターの整備

- ・地域医療支援病院として地域連携をさらに強化するとともに、患者支援の立場から紹介患者対応や医療相談、入退院受付等の窓口を一体化し、入退院患者ならびに来院者の利便性を高めます。
- ・エントランスホールに面して、患者支援センター・カフェ・コンビニ・メディアコーナーを集約配置し、地域交流や健康増進の拠点とします。

■ 患者が安心できる療養環境の整備

- ・病室は個室を主体とし、入院患者のプライバシーを守るとともに、1床あたり8㎡以上の面積を確保します。
- ・産科病棟は、個室を主体とし母子同室化する等、子育てにやさしい病院とします。
- ・スタッフステーションの周囲に重症個室や処置・観察室を配置します。

■ 職場環境の充実

- ・スタッフ commons(スタッフの交流・食事・休憩スペース)やパウダールーム(女性更衣室内)を現新棟に整備します。
- ・供給部門をワンフロアに集約配置する等、業務の効率化を図ります。

5 環境に配慮した病院づくり

■ 省エネルギー設備の導入

- ・建物への熱負荷を低減できる複層ガラス、屋上緑化を採用します。
- ・昼光センサーや人感センサーによる照明制御、高効率照明器具の採用を行います。
- ・空調や換気設備等は、高効率型機器を採用します。
- ・都市ガスによるマイクロコージェネレーションシステムを導入検討します。
- ・節水型器具を採用し、中水や井水利用の導入を検討します。

6 病院運営をしながらの安全かつ合理的な建替計画

■ 合理的な建替え計画

- ・現西棟、現東棟を継続利用することで、引越し回数を最小限に留め、患者や職員の負担を軽減します。
- ・現新棟改修工事の対象となるフロアは無人(透析部門のみ継続使用)とし、安全かつ短期間での工事とします。
- ・来院者車両、サービス車両、工事車両の動線に配慮した計画とします。

配置計画

■ 1_ 来院者の利便性に配慮した配置計画

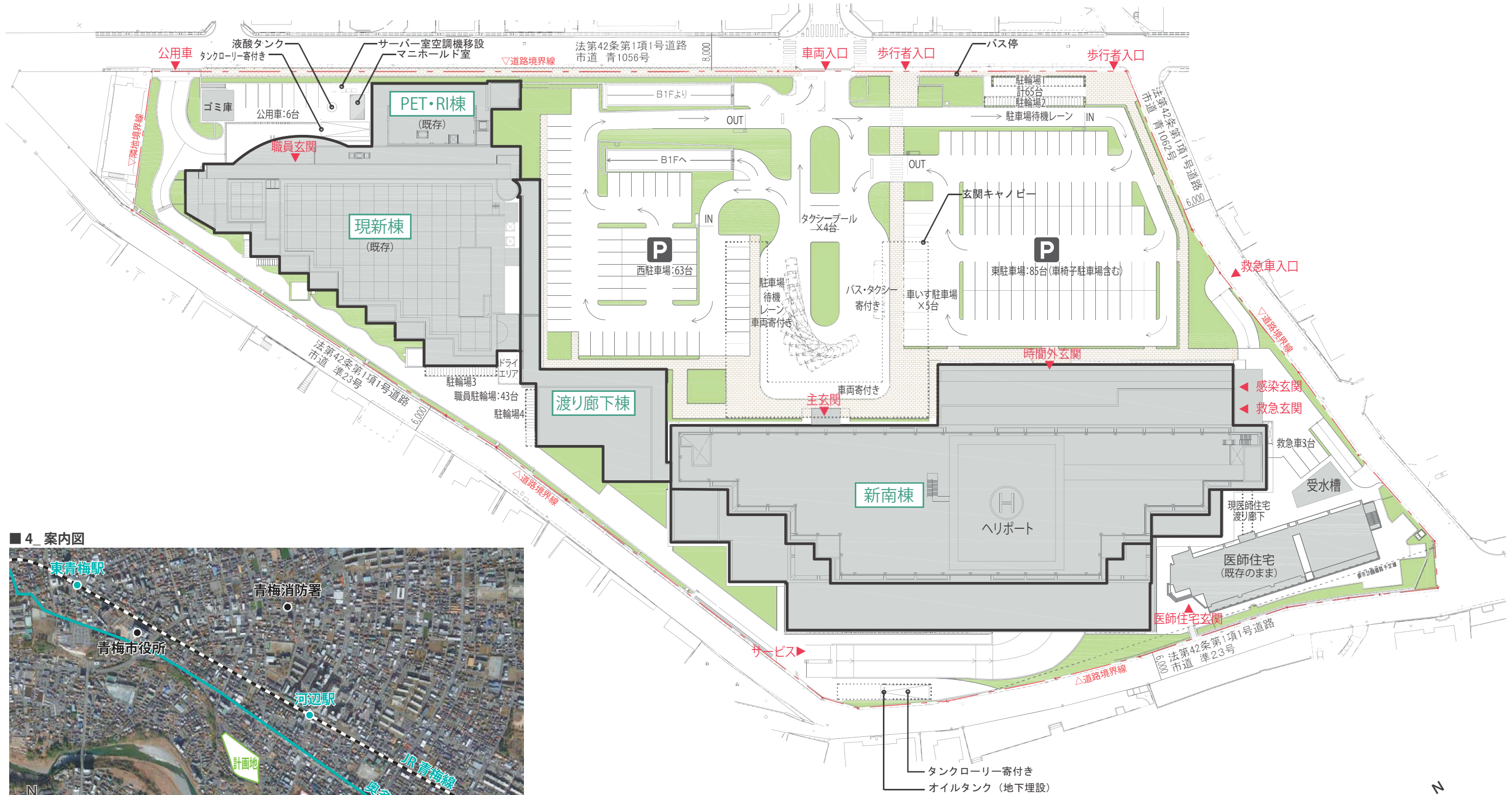
- ・見通しの良い車両寄付きや車椅子駐車場を整備します。また玄関キャノピーと一体的に屋根を設け、雨や雪の影響無く来院者を迎えます。
- ・雨や風の影響を受けない地下駐車場も含め、敷地内に 286 台程度の駐車場を確保します。
- ・来院車両、救急車両、サービス車両の出入口を完全に独立した計画とします。
- ・敷地北側の既存樹木である桜は、可能な限り残し、緑豊かな新病院づくりを行います。

■ 2_ 敷地条件

所在地	東京都青梅市東青梅 4 丁目 16 番地の 5
敷地面積	22,734.42 m ²
用途地域及び地区	第 1 種住居地域 建蔽率：60% 容積率：200% 第 2 種高度地区 準防火地域
日影規制	4 時間 / 2.5 時間 4m

■ 3_ 駐車台数

地上駐車場	148 台 (車椅子駐車場 5 台含む)
地下駐車場 (現新棟)	117 台 (車椅子駐車場 2 台含む)
サービス駐車場	12 台 (地上：2 台、新南棟地下：9 台、現新棟地下：1 台)
公用車等駐車場	9 台 (内救急車用：3 台)
合計	286 台



■ 4_ 案内図



※配置図は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。 Scale=1:800



■ 建物概要

■ 1_ 病床数

病床種別	病床数
	465 (469)
一般7:1病床	411 (415)
救急病床	20
救急ICU	4
院内ICU	6
NICU	3
GCU	6
緩和ケア病床	15
精神病床	30
感染症病床	6 (4)
合計	501 (503)

※ () 内は基本計画時の病床数

■ 2_ 診療科目

内科、呼吸器病センター(呼吸器内科、呼吸器外科)、心臓血管センター(循環器内科、外科、心臓血管外科)、消化器病センター(消化器内科、消化器外科)、血液内科、内分泌糖尿病内科、腎臓内科、脳神経センター(神経内科、脳神経外科)、脳卒中センター、リウマチ膠原病科、乳腺外科、整形外科、形成外科、化学療法外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、救急科、麻酔科、歯科口腔外科、緩和ケア科

■ 3_ 構造・規模

建物名	構造	規模
新南棟	鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造	地下1階/地上8階/塔屋階2階建
玄関キャノピー	鉄骨造	地上1階建
渡り廊下棟	鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造	地下1階/地上3階建
現新棟 (改修)	鉄骨鉄筋コンクリート造	地下2階/地上6階/塔屋階1階建
PET・RI棟 (既存)	鉄骨造	地上1階建
現東棟 (改修)	鉄筋コンクリート造	地下1階建
現西棟 (改修)	鉄筋コンクリート造	地下1階建
現西棟渡り廊下	鉄筋コンクリート造	地下1階建
医師住宅 (既存)	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	地上4階建
ゴミ庫	鉄筋コンクリート造	地上1階建
マニホールド室	鉄筋コンクリート造	地上1階建
駐輪場1~4	アルミ既製品	地上1階建

■ 4_ 延べ面積表

単位：㎡

	新南棟	渡り廊下棟	現新棟	PET・RI棟	現西棟	現西棟渡り廊下	玄関キャノピー	医師住宅	ゴミ庫	マニホールド室	駐輪場1	駐輪場2	駐輪場3	駐輪場4	医師住宅渡り廊下
床面積	PH2階	29.82													
	PH1階	42.36													
	8階	2,646.29													
	7階	2,646.29		96.09											
	6階	2,646.29		1,296.81											
	5階	2,646.29		1,633.99											
	4階	3,178.08		1,674.62				377.48							
	3階	4,347.67	232.50	1,669.28				382.27							
	2階	4,641.03	261.03	1,674.00				382.27							
	1階	4,742.52	707.24	2,010.75	319.89			225.93	363.31	40.95	15.45	38.40	41.60	29.60	23.60
	地下1階	4,171.26	196.30	3,655.49		935.45	55.10								
	地下2階			4,352.60											
	床面積	31,737.90	1,397.07	18,063.63	319.89	935.45	55.10	225.93	1,505.33	40.95	15.45	38.40	41.60	29.60	23.60
合計	54,429.90														
容積 不算入面積	EV	827.89		290.92				14.04							
	駐車場等	713.57		5,757.10							38.40	41.60	29.60	23.60	
	自家発電機蓄電池設備	118.80		197.96											
	備蓄倉庫					935.45									
小計	1,660.26	0.00	6,245.98	0.00	935.45	0.00	225.93	14.04	0.00	0.00	38.40	41.60	29.60	23.60	0.00
容積不算入面積合計	9,214.86														
容積対象面積	45,215.04														

■ 5_ 建築面積表

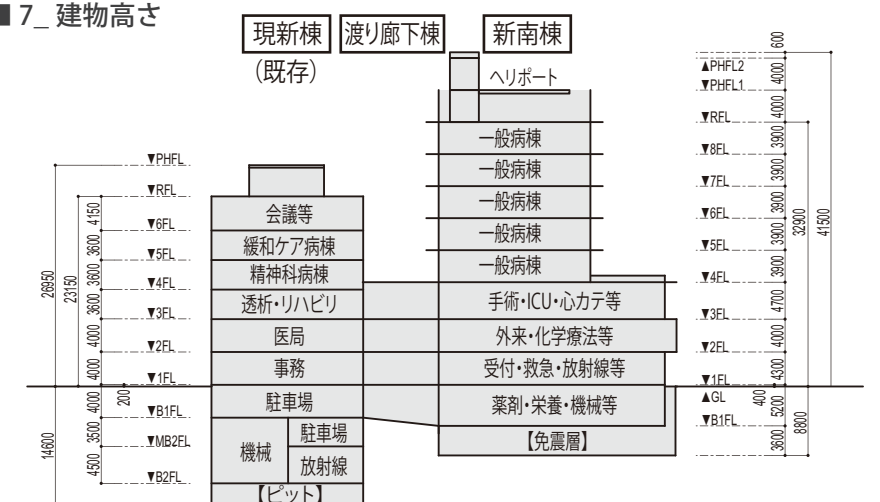
単位：㎡

	新南棟	渡り廊下棟	現新棟	PET・RI棟	現西棟	現西棟渡り廊下	玄関キャノピー	医師住宅	ゴミ庫	マニホールド室	駐輪場1	駐輪場2	駐輪場3	駐輪場4	医師住宅渡り廊下
建築面積	4,921.40	707.24	2,162.50	326.43	0.00	0.00	620.09	424.97	40.95	15.45	38.40	41.60	29.60	23.60	10.00
合計	9,362.23														

■ 6_ 容積率・建蔽率

敷地面積	22,734.42㎡	
延べ面積	54,429.90㎡	
容積対象延べ面積	45,215.04㎡	
容積率	45,215.04 / 22,734.42	198.89% / 200%(許容)
建築面積	9,362.23㎡	
建蔽率	9,362.23 / 22,734.42	41.18% / 70%(許容)

■ 7_ 建物高さ



※建物概要は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。

建築計画

■ 1_ 平面計画

【地下2階・中2階】

・現新棟の地下2階は現状のままとし、放射線治療や駐車場として利用します。

【地下1階】

- ・薬剤、栄養、物流、中央材料等の供給部門を集約配置し、スタッフの業務効率化を図ります。
- ・雨や風の影響なく搬出入可能なサービス車両駐車場を整備します。
- ・感染診察室を設けるとともに、サービス車両駐車場を患者受入スペースに活用します。
- ・現西棟地下を災害時等の備蓄倉庫として再利用します。
- ・現東棟地下ピットを緊急排水槽として再利用します。

【1階】

- ・3層吹抜けのエントランスホールに面し、患者支援センター・講堂・メディアコーナー・カフェ・コンビニ等を設け、青梅市立総合病院の新たな顔を整備します。
- ・救命救急センター、小児科、放射線、内視鏡をワンフロアに集約配置し、救急医療の強化を図ります。
- ・隣接する救急専用エレベーターで屋上ヘリポート、3階の手術・救命救急センター（救急病棟・救急ICU）・院内ICUと直結します。
- ・現新棟には新たに事務室や職員更衣室等を整備します。

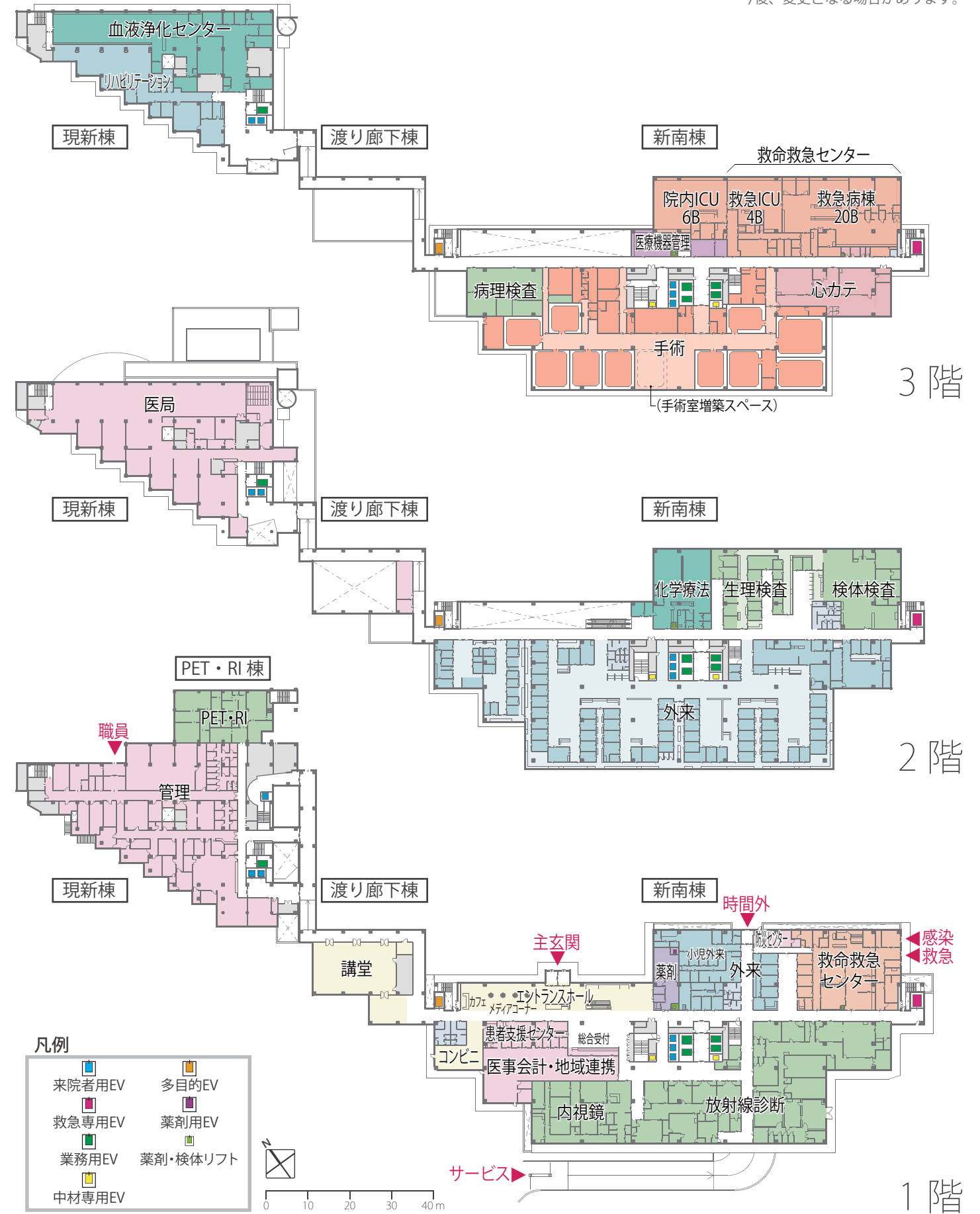
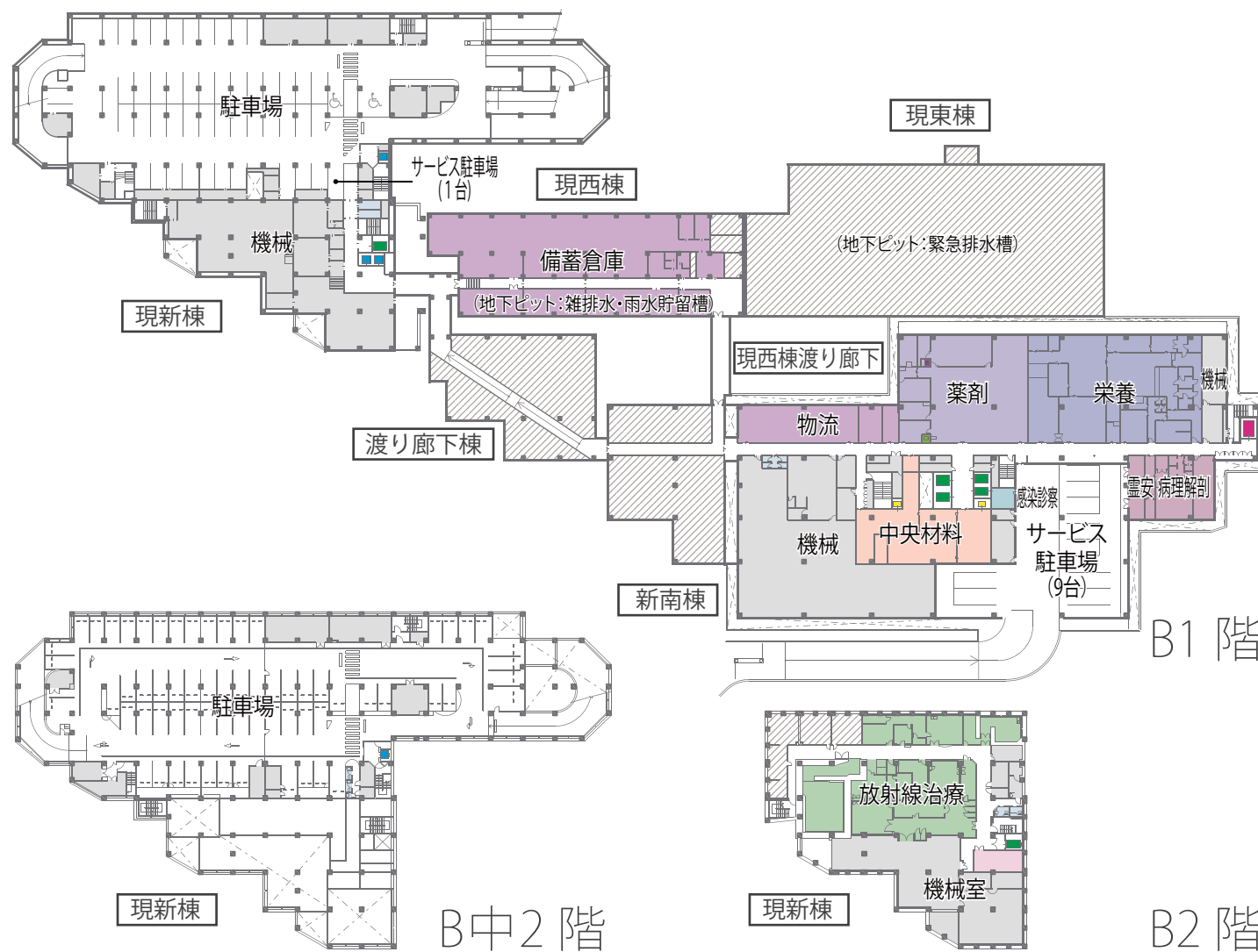
【2階】

- ・外来部門を中心に、生理検査や採血・採尿検査を隣接させることで、患者の利便性を向上します。
- ・1階総合受付の他、2階にも会計窓口を設けることで、患者を分散し、待ち時間の短縮を図ります。
- ・現新棟には、将来の医師増加にも対応可能なオープンオフィス医局を整備します。

【3階】

- ・手術、心カテ、救命救急センター（救急病棟・救急ICU）、院内ICUを集約配置した高度急性期フロアを整備します。
- ・手術と病理検査を隣接させ、迅速な検査が可能な計画とします。
- ・現新棟は既存の血液浄化センターを拡張するとともに、眺望の良い南側にリハビリを配置します。

※平面計画は基本設計時のものです。
今後、変更となる場合があります。



凡例

	来院者用EV		多目的EV
	救急専用EV		薬剤用EV
	業務用EV		薬剤・検体リフト
	中材専用EV		

建築計画

1_ 平面計画

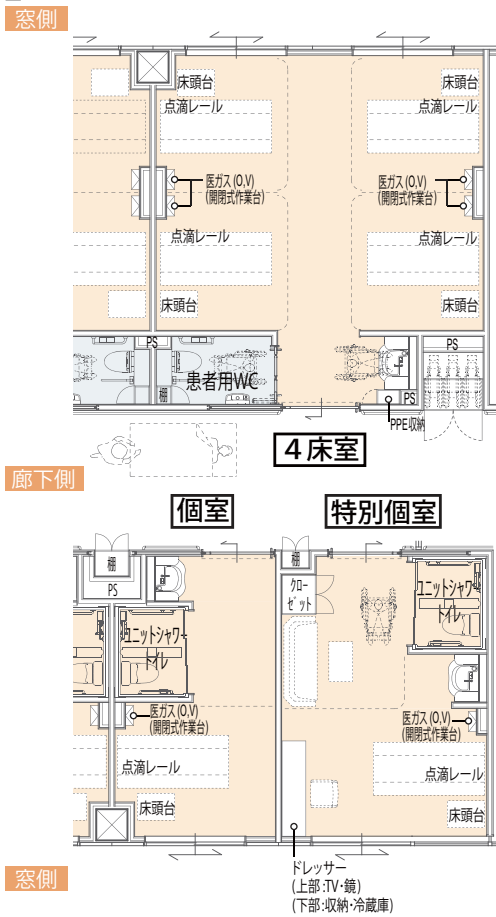
【4～8階（病棟フロア）】

- 多摩の豊かな眺望を最大限に取り込んだ、1フロア2看護の病棟計画とします。
- スタッフステーションに面して、重症個室やデイクォーターを配置し患者の見守りやすさと看護動線の短縮に配慮します。
- 各病棟の出入口に管理扉を設置し、セキュリティを高めます。
- 患者・来院者用エレベーターホールと業務用エレベーターホールを分離することで、動線の混在を防ぎます。
- 新南棟4階は小児・産科病棟と併設し、NICUやGCUを配置することで周産期連携病院として充実した機能を確保します。
- 新南棟7階の一般病棟には、結核病室（2床）と感染症病室（6床）を整備します。
- 新南棟8階の一般病棟には、無菌病室（3床）と準無菌病室（9床）を整備します。
- 現新棟4階には、精神科病棟（30床）を整備します。
- 現新棟5階には、新たに緩和ケア病棟（15床）を整備します。

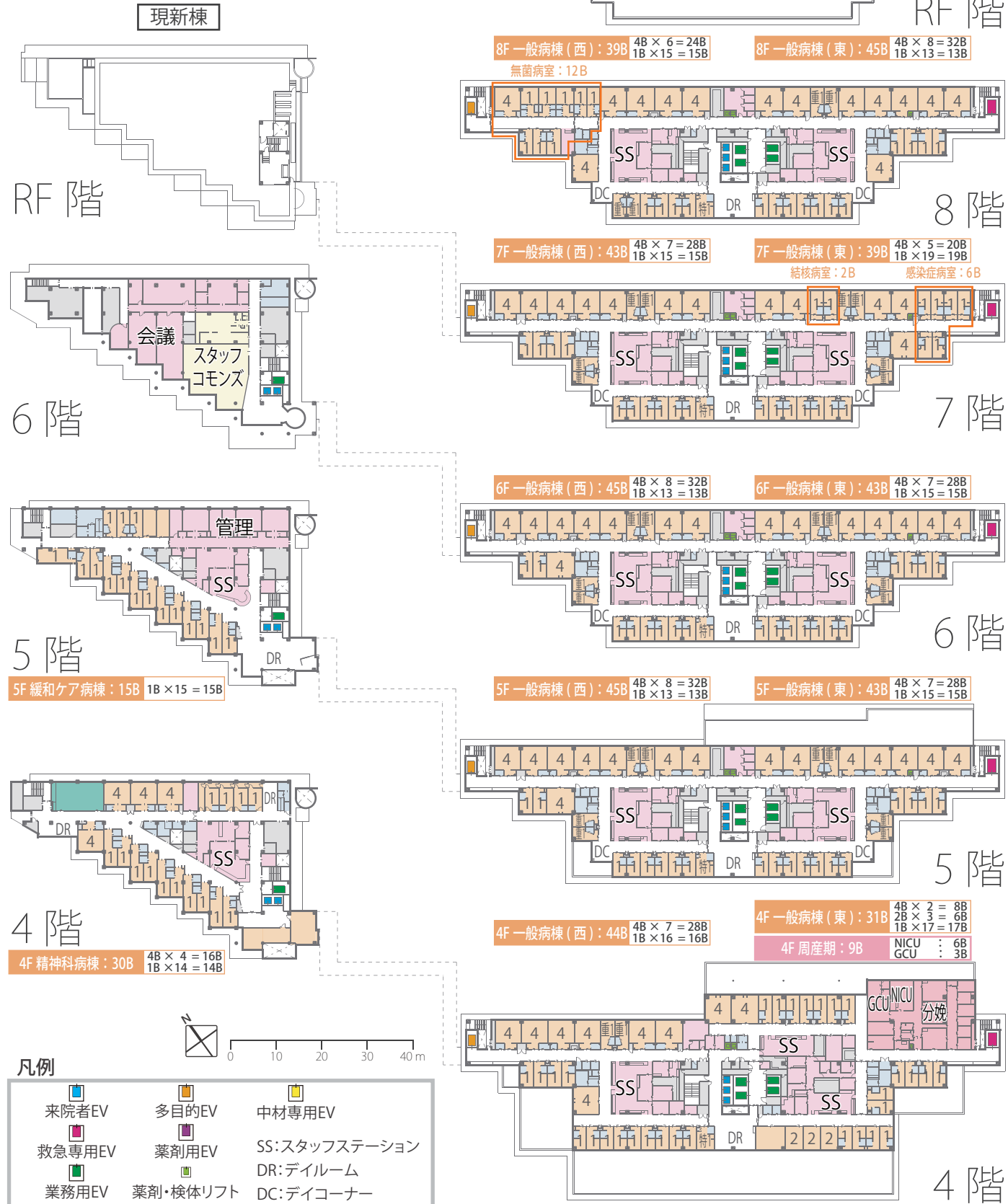
【屋上階】

- 救急専用のエレベーターと直結したヘリポートを整備し、1・3階の救命救急センターや3階の手術部門と直結します。

2_ 病室詳細図



※平面計画は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。



3_ 部門別面積表 ※部門別面積表は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。

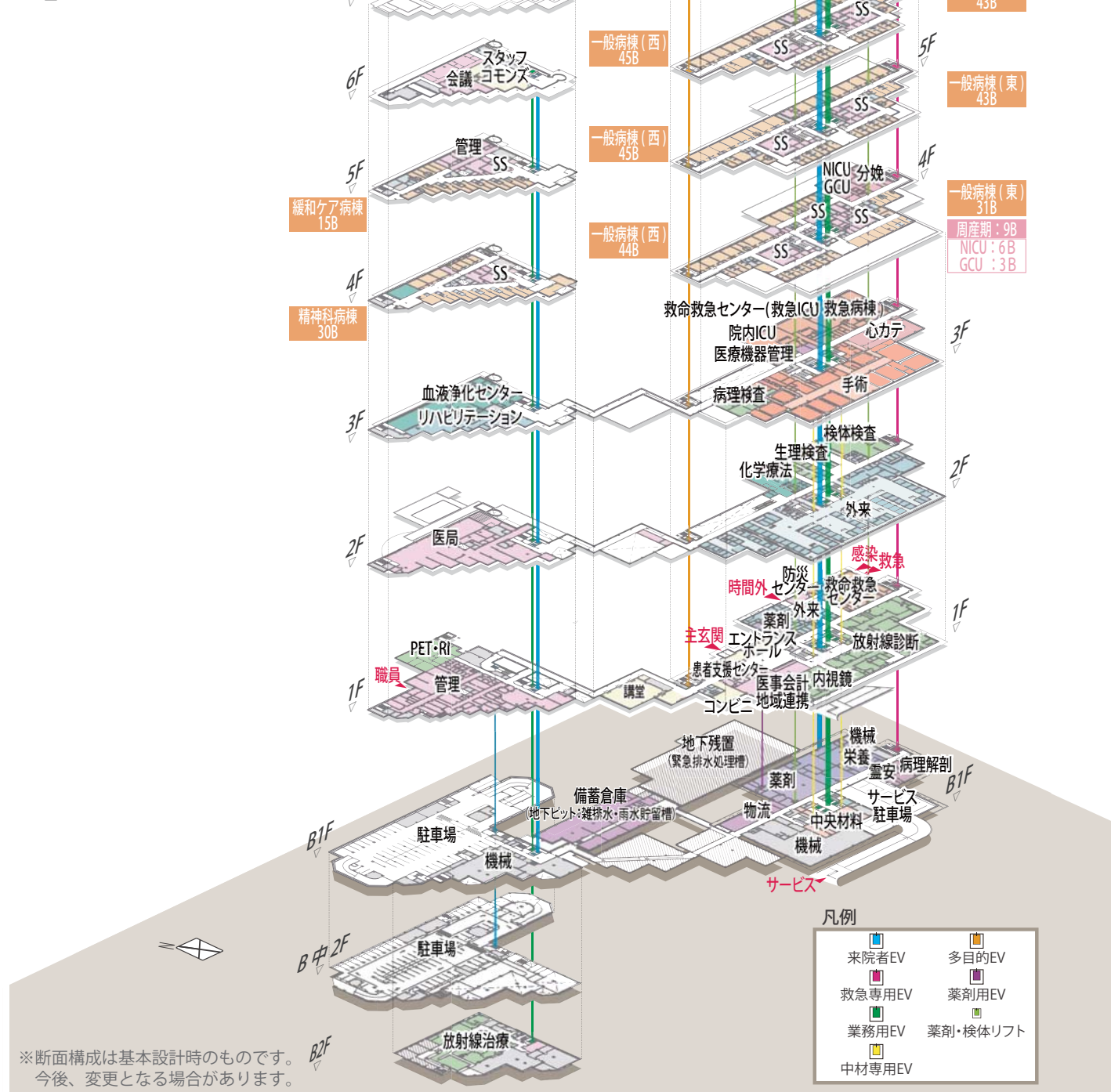
大分類	部門名	面積 (㎡)	割合 (%)
病棟	3階救命救急センター(救急病棟・救急ICU)・院内ICU	1,099.34	2.4
	一般病棟 (無菌・感染・結核含む)	12,319.23	27.4
	周産期 (分娩・NICU・GCU含む)	380.08	0.8
	精神科病棟 緩和ケア病棟	2,417.98	5.4
小計		16,216.63	36.0
外来	外来部門 (一般外来)	2,928.62	6.5
	外来部門 (感染診療)	20.70	0.0
	外来部門 (小児外来)	226.42	0.5
	1階救命救急センター	552.55	1.2
小計		3,728.29	8.3
診療	手術部門	1,871.06	4.2
	心カテ	321.93	0.7
	放射線診断部門	1,840.87	4.1
	放射線治療部門	604.50	1.3
	内視鏡部門	411.08	0.9
	検査部門 (検体検査)	462.31	1.0
	検査部門 (生理検査)	416.64	0.9
	検査部門 (病理検査)	235.14	0.5
	検査部門 (病理解剖)・霊安室	192.00	0.4
	リハビリテーション部門	639.41	1.4
	血液浄化センター	695.82	1.5
	化学療法部門	304.66	0.7
小計		7,995.42	17.8
供給	薬剤部門	575.09	1.3
	中央材料部門	285.84	0.6
	医療機器管理部門	133.42	0.3
	栄養部門	700.29	1.6
	物流部門	1,024.72	2.3
小計		2,719.36	6.0
管理	エントランスホール(カフェ・メディアコーナー)	295.57	0.7
	医事会計・地域連携	336.16	0.7
	診療情報管理	150.99	0.3
	患者支援センター	221.28	0.5
	医局・看護・事務・会議等	3,231.65	7.2
	講堂	385.32	0.9
	更衣・当直	425.10	0.9
	利便施設(コンビニ・スタッフ commons)	370.52	0.8
	施設管理 (防災センター等)	243.21	0.5
	機械室	2,432.16	5.3
	小計		8,091.96
共用	廊下 (PS、DS、EPS含む)	6,000.75	13.4
	共用トイレ	204.45	0.5
小計		6,205.20	13.8
合計		44,919.56	100.0

建築計画

■ 1_縦動線計画

- ・新南棟の中央部に、来院者用、業務用(寝台・配膳・中材)エレベーターを配置します。
- ・新南棟の東側端部に、1・3階の救命救急センター、手術・心カテ、院内ICU、NICU・GCU・分娩、屋上ヘリポートを直結する救急専用エレベーターを整備します。
- ・新南棟西側に多目的エレベーターを設け、現新棟へスムーズに移動可能な計画とします。
- ・新南棟の検体・薬剤等の搬送については、気送管設備や小荷物搬送機、薬剤専用エレベーター等の導入を検討し、搬送業務の軽減と効率化を図ります。
- ・現新棟のエレベーターは、現行法に適合するように改修を行います(来院者用、業務用の4台)。

■ 2_断面構成図



災害拠点病院としての設計対応

災害拠点病院としての機能確保を図るため、「災害時における医療体制の充実強化について(医政発0321第2号平成24年3月21日)」に基づき、以下の整備を行います。

災害拠点病院指定要件 (施設及び設備)		設計対応																		
項目	内容																			
①医療関係 ア.施設(ア)	病棟(病室、ICU等)、診療棟(診察室、検査室、レントゲン室、手術室、人工透析室等)等救急診療に必要な部門を設けるとともに、災害時における患者の多数発生時に対応可能なスペース及び簡易ベッド等の備蓄スペースを有することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ・新南棟の病室は、可能な範囲で災害時に4床室を6床室に、1床室を2床室に対応可能な計画とする(特殊な病室は除く)。 ・病室での対応の他、講堂・多目的室・中央処置室・外来化学療法室・リハビリテーション等を入院患者収容スペースとする。 ・外来患者の収容については、エントランスホールや外来部門の他、地下駐車場や玄関キャノピー等を有効活用する。 																		
①医療関係 ア.施設(イ)	診療機能を有する施設は耐震構造を有することとし、病院機能を維持するために必要なすべての施設が耐震構造を有することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ・新南棟は免震構造、渡り廊下棟は耐震構造とする。 ・総合耐震計画基準による耐震安全性の分類は、構造体-1類、建築非構造部材-A類、建築設備-甲類とする。 ・エレベーターは、地震時管制運転及び自動診断・復旧運転対応とする。 																		
①医療関係 ア.施設(ウ)	通常時の6割程度の発電容量のある自家発電機等を保有し、3日分程度の燃料を確保しておくこと。また、平時より病院の基本的な機能を維持するために必要な設備について、自家発電機等から電源の確保が行われていることや、非常時に使用可能なことを検証しておくこと。なお、自家発電機等の設置場所については、地域のハザードマップ等を参考にして検討することが望ましい。	<table border="1"> <tr> <td>電力</td> <td>・非常用発電機を設置し、燃料備蓄により3日間(72時間)運転</td> </tr> <tr> <td>給水設備</td> <td>・使用制限と雑用水利用(現西棟地下ピットに雑用水槽の設置を検討)することで3日分を備蓄 ・井水利用の検討</td> </tr> <tr> <td>排水設備</td> <td>・現東棟の地下ピットを利用し、災害時緊急排水槽の設置を検討</td> </tr> <tr> <td>給湯設備</td> <td>・給湯設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄</td> </tr> <tr> <td>ガス設備</td> <td>・耐震性の高い、中圧ガス本管を地内へ引込み</td> </tr> <tr> <td>医療ガス設備(酸素)</td> <td>・10日分の備蓄(貯蔵量の2/3が10日以上となるように容量を設定)</td> </tr> <tr> <td>医療ガス設備(空気、吸引)</td> <td>・コンプレッサー電源を非常用発電機回路とする</td> </tr> <tr> <td>蒸気設備</td> <td>・蒸気設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄</td> </tr> <tr> <td>空調設備</td> <td>・必要エリアの空調設備を非常用発電機とガスにより稼働させる</td> </tr> </table>	電力	・非常用発電機を設置し、燃料備蓄により3日間(72時間)運転	給水設備	・使用制限と雑用水利用(現西棟地下ピットに雑用水槽の設置を検討)することで3日分を備蓄 ・井水利用の検討	排水設備	・現東棟の地下ピットを利用し、災害時緊急排水槽の設置を検討	給湯設備	・給湯設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄	ガス設備	・耐震性の高い、中圧ガス本管を地内へ引込み	医療ガス設備(酸素)	・10日分の備蓄(貯蔵量の2/3が10日以上となるように容量を設定)	医療ガス設備(空気、吸引)	・コンプレッサー電源を非常用発電機回路とする	蒸気設備	・蒸気設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄	空調設備	・必要エリアの空調設備を非常用発電機とガスにより稼働させる
電力	・非常用発電機を設置し、燃料備蓄により3日間(72時間)運転																			
給水設備	・使用制限と雑用水利用(現西棟地下ピットに雑用水槽の設置を検討)することで3日分を備蓄 ・井水利用の検討																			
排水設備	・現東棟の地下ピットを利用し、災害時緊急排水槽の設置を検討																			
給湯設備	・給湯設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄																			
ガス設備	・耐震性の高い、中圧ガス本管を地内へ引込み																			
医療ガス設備(酸素)	・10日分の備蓄(貯蔵量の2/3が10日以上となるように容量を設定)																			
医療ガス設備(空気、吸引)	・コンプレッサー電源を非常用発電機回路とする																			
蒸気設備	・蒸気設備機器の稼働に必要な3日分の燃料を備蓄																			
空調設備	・必要エリアの空調設備を非常用発電機とガスにより稼働させる																			
①医療関係 ア.施設(エ)	適切な容量の受水槽の保有、停電時にも使用可能な井戸設備の整備、優先的な給水協定により、災害時の診療に必要な水を確保すること。																			
①医療関係 イ.設備(ウ)	災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うために必要な診療設備。	・1階の救命救急センター初療室にて対応。																		
①医療関係 ウ.その他	食料、飲料水、医薬品等について、流通を通じて適切に供給されるまでに必要な量として、3日分程度を備蓄しておくこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水等は、3日分備蓄。 ・備蓄スペースとして、現西棟地下1階に備蓄倉庫を整備。 																		
②搬送関係 ア.施設	原則として、病院敷地内にヘリコプターの離着陸場を有すること。	・屋上にヘリポート(飛行場外離着陸場)を設置。																		

※災害拠点病院としての設計対応は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。

環境配慮計画

1_ 新南棟の設備概要

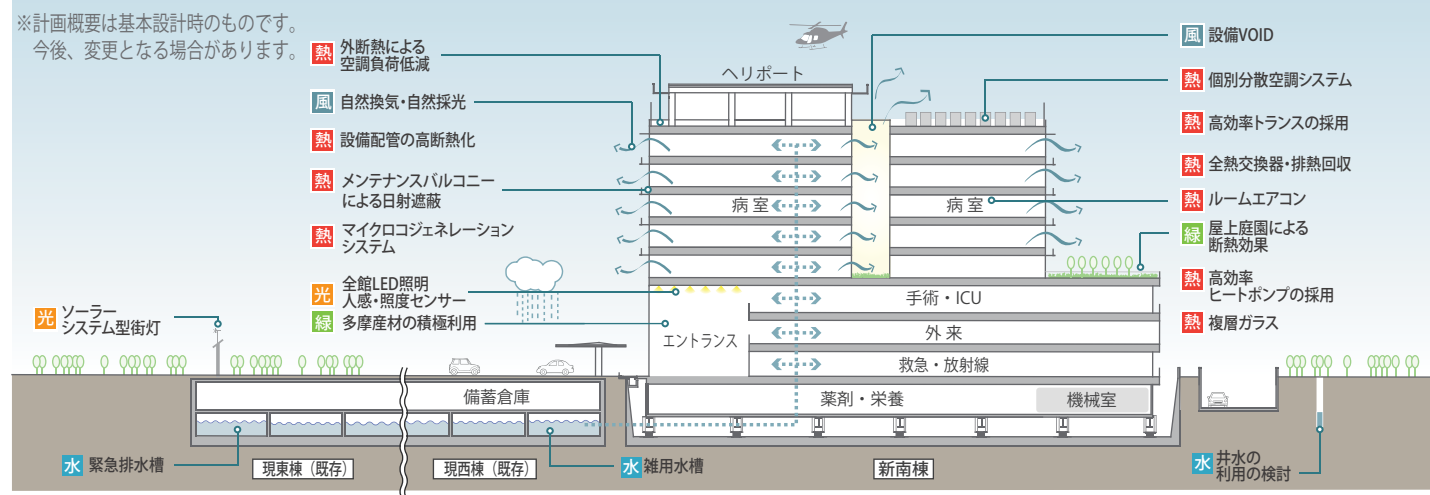
※設備概要は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。

熱源設備	・冷温水発生機、貫流蒸気ボイラー、マイクロコージェネレーション設備を採用します。
病室の空調方式	・消費電力が最も低く、メンテナンスも容易かつ各室毎にコントロール可能なルームエアコンを採用します。
低層階の空調換気方式	・「冷温水発生機+外気処理空調機+ガス空調(一部、電気空調)」の採用により、消費電力をおさえます。
受変電設備	・地下の機械室に設け、高圧2回線受電(本線・予備線)を引込みます。
自家発電設備	・1,250kVA非常用発電機+マイクロコージェネレーション設備(35kw×4基)を屋上に整備します。
給湯方式	・発生する蒸気を空調の加湿にも利用可能な、ガス熱源の「蒸気ボイラー+貯湯槽方式」を採用します。
受水槽	・限られたスペースに、自由な形状で効率よく配置可能な「鋼製一体型タンク」を採用します。

2_ 環境配慮計画

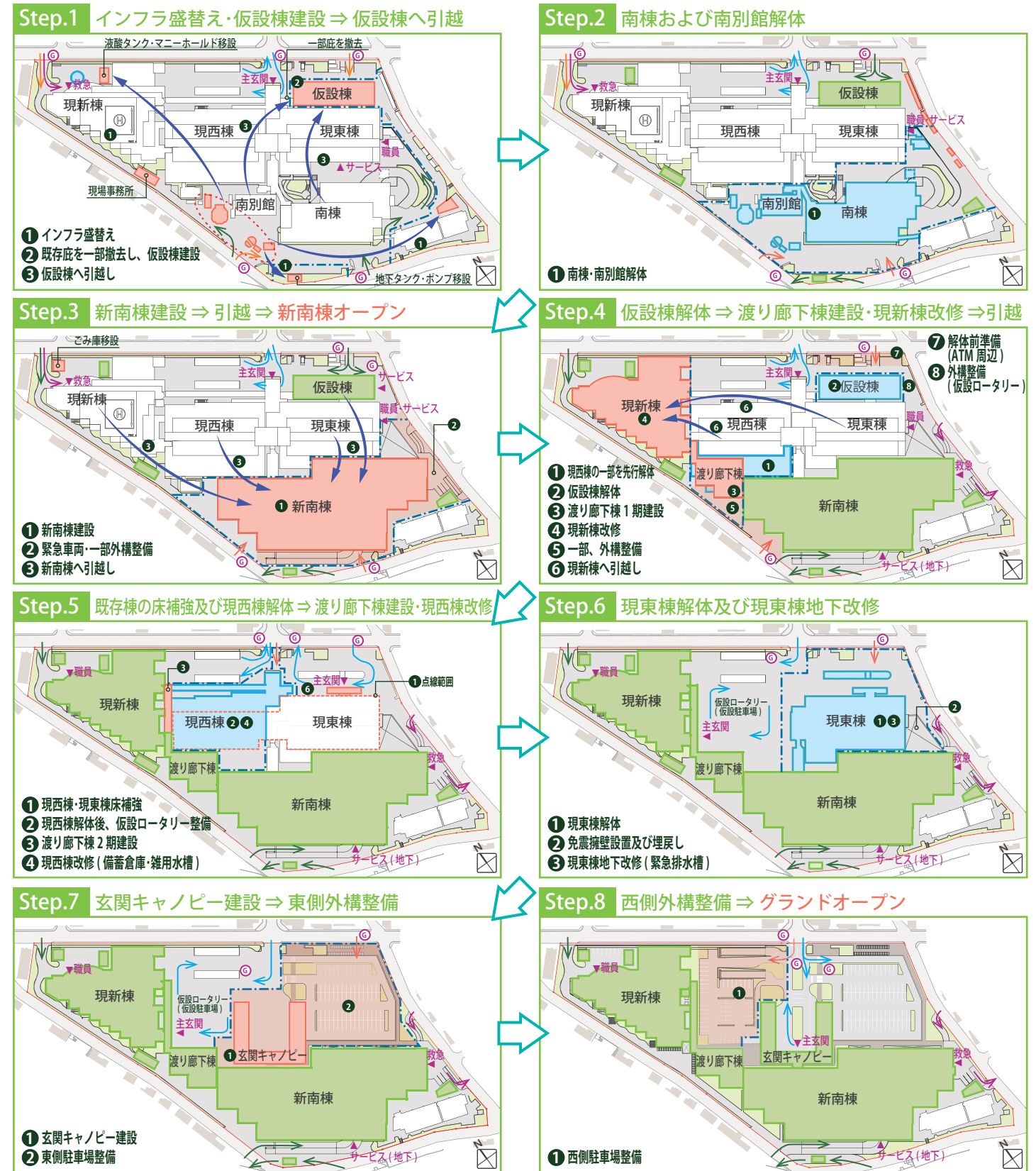
※環境配慮計画は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。

デザインと環境配慮	メンテナンスバルコニー	・夏季は室内への日射を遮蔽し、冬季は日射を有効的に室内まで取込むとともに、病室空調の室外機置場とすることで、配管材料を削減します。
癒しと安らぎの環境の創造	多摩産材の活用	・受付カウンター等の家具の他、一部の建築仕上げに多摩産材を採用し、来院者をあたたかく迎える計画とします。
	屋上庭園の整備	・患者、来院者、職員の癒やしと安らぎの場として、緑豊かな屋上庭園を整備するとともに、熱負荷の低減や照り返しを抑制します。
	敷地内を積極的に緑化	・現病院北側の桜をシンボルツリーとした緑化計画とし、患者・来院者・職員らとともに、引続き青梅市立総合病院の歴史を刻みます。
熱負荷の軽減	複層ガラス	・複層ガラスを採用し、熱負荷の軽減を図ります。
	屋根の断熱	・外断熱(断熱材25mm)の防水工法を採用します。
	外壁の断熱	・地上階の外壁は、押出成形セメント板+断熱材25mm吹付(内断熱)とし、地階はALC+断熱材20mm吹付(内断熱)とします。
	床の断熱	・免震ピットや配管ピットの天井スラブ下は、押出法ポリスチレンフォーム断熱材25mm打込とします。
自然エネルギーの有効活用	自然採光	・廊下の突き当りは、できる限り窓を設け(オープンエンド廊下)、自然採光を積極的に院内へ採り入れます。
	自然換気	・病棟階の中心に設備VOIDを設け、建物内の自然換気を促します。 ・病室の窓は、自然換気に配慮した形状(引違い窓等)とします。
資源・マテリアル対策	再生砕石	・免震ピット床板下への採用を検討します。
	現西棟、現東棟の地下躯体利用	・地下躯体を残し有効活用することで埋戻し土の不要な計画とします。 ・現西棟の地下ピットを雑用水槽、現東棟の地下ピットを災害時緊急排水槽に活用します。



3_ 建替計画

※建替計画は基本設計時のものです。今後、変更となる場合があります。



工程表	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
基本設計	10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
実施設計									
建設工事									
竣工									

- 凡例
- ← : 来院者車両
 - ← : 緊急車両
 - ← : サービス車両
 - ← : 安全区画
 - ← : 工事車両
 - ⊙ : 保安要員
 - : 工事中建物
 - : 解体建物
 - : 工事完了建物